

# 生き生きむらだよりNO. 26

平成20年8月 宮城県大河原地方振興事務所農業農村整備部発行

## 管内ニュース

### 前川地区ワークショップを開催！～中山間地域の活性化へ向けての活動～

川崎町の前川地域では、農業生産基盤と生活環境基盤を総合的に整備し、将来とも魅力的で活力ある地域を作りたいという夢がありました。

その地域の夢を実現するために、まず、地域の住民の皆さん自身に地域をよく知ってもらい、より実現性の高い夢を描いていただくために、3回シリーズのワークショップを開催することとなりました。

今回のワークショップでは、住民の皆さんと共にNPO法人、川崎町、土地改良区、県の協力のもと、前川地域の特産や自然環境、歴史文化などの広くPRできるものから、大人から地域の子供たちへ伝えていくべきものまで、様々な「宝」をみんなで探し、みんなで考え、みんなで実現可能な夢として作り上げることを目的としました。



#### 第1回ワークショップ テーマ「地域のお宝探しをしよう」

実施日 6月15日(日) 参加人数 地元住民28名,スタッフ20名

当日は、4班に分かれコース毎に歩きながら写真やメモをとり散策しました。自生の山菜やきれいな水など自然豊かな前川地域のお宝を再発見しました。

#### 第2回ワークショップ テーマ「お宝を将来どう活かしていくか考えよう」

実施日 6月27日(金) 参加人数 地元住民22名,スタッフ17名

散策したときと同じ4班に分かれ、点検したお宝をそれぞれ「農業」「人物」「動植物」「歴史文化」といったキーワードに色分けし、班としての地域マップを作成しました。

#### 第3回ワークショップ テーマ「みんなで描いてみよう。地域の将来像」

実施日 7月11日(金) 参加人数 地元住民22名,スタッフ18名

各班で作成されたマップの中で特徴のある項目を「都市との交流ゾーン」「地域資源活用ゾーン」「せせらぎゾーン」「おいしい米と歴史文化ゾーン」というキーワードで括り、参加者総意のもと一つの夢としてまとめ上げました。

3回のワークショップの結果、参加者の総意のもとキャッチフレーズが掲げられ、地域活性化へ向けた夢を「活性化構想図」として描きました。

地元からは「今回のワークショップをきっかけとして夢の実現のためがんばっていきいたい」という力強い言葉も聞かれるなど、充実したワークショップになりました。

今後、この「活性化構想図」に描かれた夢を実現するため、より具体化した内容の計画として取りまとめて行く予定です。

## 前川地区キャッチフレーズ

大自然 山・水・米 おいしい楽しい前川

## 管内の中山間地域等直接支払制度モデル集落の取り組み

- 角田市西根 6 区集落 -

### ブルーベリーの初収穫が始まりました

角田市西部に位置する西根 6 区集落は、平成 19 年度から 3 年間、県で積極的に支援する中山間地域等直接支払制度のモデル集落として位置づけられています。

酒米（美山錦 4 h a）の作付け、小学校と連携した農業体験などを実施していますが、新規導入作物としてブルーベリーを 1.0 h a 作付けしています。作付けをして 3 年目を迎える今年、7 月上旬から 8 月上旬にかけて、初めての収穫が始まりました。まだ収穫の最中であり、最終的な収量がどれ程になるか未定ですが、収穫したブルーベリーは授産施設と連携しジャム等の加工品を生産する計画です（今年は試作品を作る予定）。8 月 3 日には、今後の集落の方向性を考えるため、ブルーベリーの摘み取り加工を行っている岩手県一ノ関市のブルーベリーファームへ視察研修会を実施しました。



また、桜や神社などの位置を示した「西根 6 区集落みどころマップ」を作成。内容に改良を加えながら活用方法を検討していく予定です。

## 地産地消で地元の山を元気に - 地元（角田市）の間伐材を利用 -

### 手代木沼の親水デッキが完成しました

平成 20 年 3 月、角田市手代木沼で地元の間伐材を利用した親水デッキが完成しました。

手代木沼は角田市の西部に位置する農業用ため池ですが、春は桜、夏はハスが咲き、冬は白鳥が飛来し、市内外から多くの人々が訪れる憩いの場となっています。しかしながら、波浪による浸食のために堤体が弱体化していたことから、農林水産省の補助事業である県営地域用水環境整備事業により、ため池の改修と一体的に親水空間の創出を図ることを目的に整備（事業期間平成 13 年年度～21 年度まで）を行っています。

親水デッキの構造については、地元の関係行政区長及び地域住民の方々、白鳥を守る会等との話し合いにより、地元の間伐材を利用することにしました。伐採にあたっては、みやぎ材利用センターへ依頼し、センターが定めた「優良みやぎ材製品品質基準規格」に基づく資材を搬入できる地元・角田市の森林所有者を選定しました。

地元間伐材を利用することにより、地域の森林、林業・木材産業への貢献や森林資源の健全な育成が図られることで、「水源かん用」「土砂流出防止」「大気保全」などの環境効果が見込まれます。

平成 20 年度は親水デッキ 2 基とトイレ、平成 21 年度は遊歩道（木材チップ）、安全柵、階段工など、引き続き地元の間伐材利用を推進する予定です。



完成したばかりの親水デッキと桜並木



## 2 1 世紀土地改良区創造運動

- 水土里の路ウォーキング -

### ～ 角田地域の農業を支える水利施設を訪ね、地域用水の歴史や役割を学ぶ～ 水土里の路ウォーキングを開催しました！

平成20年4月27日(日)、角田市内において、角田地域の農業水利施設の歴史にふれる機会や地域用水に係る様々な役割を学ぶ『水土里の路ウォーキング』(主催：水土里ネットかくだ、大河原地方振興事務所)を開催しました。

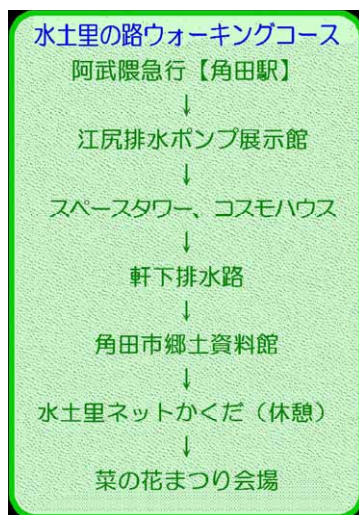
これは、21世紀土地改良区創造運動の一環として、都市住民の方々に余暇を利用したウォーキングに参加していただきながら農業・農村への理解を深めてもらうことを目的に開催され、一般参加者や関係職員を含めた31名が参加しました。



江尻排水ポンプ展示館内の見学の様子

当日は、『角田市「地域用水」の現在・過去・未来を感じるウォーキング』をテーマとして、昭和始めに東洋一の大きさと言われた江尻排水機場の旧ポンプを展示している江尻排水ポンプ記念館や、角田地域が一望できるスペースタワー、市内を流れる農業用排水路や角田市郷土資料館を見学するなど、ゴールとなる菜の花まつり会場までの約5.4kmを歩きました。

特に、「江尻排水ポンプ記念館」では、角田隈西地域の農業用水不足を解消しようと角田上水(現:坪石幹線用水路)の完成に尽力した高山善右衛門についてや、その用水が今も防火用水など地域用水として利用されていることなど、水土里ネットかくだ職員が丁寧にその歴史について解説すると、参加者は熱心に聞き入り、展示物等を興味深く見学していました。



### 新しくできる「橋」の名称が決定しました

現在、仙南東部広域営農団地農道整備事業として工事が行われております「仙南東部2期地区(大河原町大谷～金ヶ瀬を結ぶ白石川橋梁、大谷跨線橋などを含む0.7km区間)」について、このたび、その白石川に架かる橋の名称を募集したところ、たくさんの御応募があり、去る7月16日に選考委員会が行われました。応募作品はどれも素晴らしい名称ばかりですが、未来まで残る名称でもあり選考委員も慎重に協議を行った結果、新しい橋の名称は『金ヶ瀬さくら大橋』に決定されました。

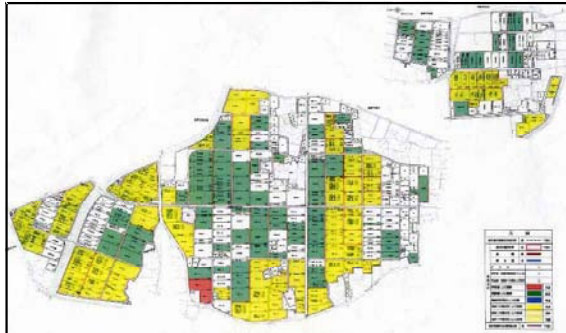


## 大河原管内農業農村整備事業紹介 - 角田市枝野地区・蔵王町円田 2 期地区 -

### 角田市枝野地区で「一括利用権設定」がスタートしました。

枝野地区は、農地の効率的な土地利用を推進するために、平成17年から平成19年にかけて6つの土地利用調整組織（アグリセンター）を設立させて大豆と麦の集団転作や団地化に取り組み、アグリセンターを核とした地区内担い手農家や組織の経営安定と農地集積推進、換地後の地域農業体づくり、及び減農薬栽培による環境保全型農業などに取り組んでいます。

特に、今年4月には各アグリセンターと角田隈東土地改良区は、効率的な土地利用を地区全体で実践すべく、角田市農業振興公社（農地保有合理化法人）を介した「一括利用権設定」



を実施し、地区内185.6ha（田196.9ha中、94.2%）の土地耕作権と所有権を分離した一体的な土地利用調整をスタートさせました。今後は3年毎に農地のブロックローテーションを行いながら新たな委託希望等に対応し、任意組織であるアグリセンターの基盤強化を図る予定とことから、今後もその活動が大いに期待される地区です。

### 蔵王町円田 2 期地区で「地下かんがいシステム」の現地説明会を行いました。

平成20年4月21日（金）、蔵王町円田 2 期地区のほ場において、暗渠排水工事の施工に合わせた地下かんがいシステム（フォアス）についての現地説明会を行い、関係地権者及び担い手、関係機関等を含めた約40名が参加しました。

この説明会では、地下かんがいの概要や地下水調整機能付き水閘の使用方法等について、開発者である(株)パディ研究所の小野寺氏に御指導をいただきました。また、古川農業試験場の石川技術主査からは、同システムを使用した大豆栽培に関する実践結果や管理方法について指導いただきました。



#### 地下かんがいシステム（フォアス）

フォアスは、地下かんがいと暗渠排水を両立した水田の地下水位制御システムのことで、

ほ場全面の地下水位を、作物に適するように設定した位置で均一（弾丸暗渠など補助孔が必要）に保つことで、麦や大豆栽培等で湿害や干ばつを防ぐなど、高品質化や増収が望めます。また、水稻栽培でも中干しなど水管理の省力化や田畑転換も容易に行えるほか、水位を一定に保つことでモミ殻等の暗渠疎水材の腐食（空気に触れることでの酸化）が進みにくくなり、対応年数が長くなるなどのメリットがあります。

なお、同地区では説明会後に担い手組織が地下かんがいシステムを活用した大豆の作付けを行っており、今月8月5日（火）には、古川試験場の協力をいただきながら営農比較調査を実践しております。当部では、今後もハードとソフトの一体的な基盤整備支援・指導等を行い、地区の営農推進に協力していききたいと思います。

#### 【この資料に関するお問い合わせ先】

宮城県大河原地方振興事務所 農業農村整備部 計画調整班（農村活性化担当）

電話 0224-53-3111（内線474～476）、FAX 0224-53-3071

大河原地方振興事務所のホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/oksgsin/>